

庄内協同ファームだより

No.152 2014年8月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonafarm.com>



28日の両日法人設立25周年記念事業が催されました。組合員・職員がそれぞれの仕事を分担し2年越しの準備を

そんな風を受けながら庄内協同ファームでは、6月27日、

今、硬さを増した穂の透き通った色が美しい真夏の前触れを感じる緑です。

庄内平野の夏の色は、田植え後に活着した稲が濃緑色となり、7月も半ばには、幼穂を孕みだし、葉が直立、少し色が抜けたような感じの透明感のあるエメラルドグリーンに変わりつつあります。出穂に向け穂肥を施し夏の太陽を期待します。

今、硬さを増した穂の透き通った色が美しい真夏の前触れを感じる緑です。

重ねてきたもので、2001年の加工場竣工式以来のイベントとなりました。庄内農民レポートグループ結成からこれまで40年、長い間お世話になった方々をはじめ、県内外、地元、そして遠方より首都圏、北海道、長崎から駆けつけて下さり、感激しうれしく本当に感謝しているところであります。青年部が企画進行してくれた祝賀会は150名あまりの大交流会となり、楽しく意義深く盛大に行なう事が出来ました。

私達の活動・事業が「食」と「農」を通して多くの人達の思いと繋がりに支えられ続け、今日があるものと実感しました。改めて、今与えられている責任も強く感じ取れたような気がします。大勢の方々からのお祝いの言葉、激励、期待。そしてまた笑顔を胸に刻みこみました。

今回の設立記念の冠に「未来につなぐ」と銘打ちました。法人設立世代も60代を越え、次なる世代へのバトンタッチの意味も込めた気持ちはありました。後継世代へ委ねる節目として、また、農事組合法人として次なるステップを見据える機会としても、組合員はもとより、参列して頂いた皆様からも受け止めて頂き、今後もずっと庄内協同ファームを見つめ続けてほしい、そんな思いでの開催でした。果して、この節目がこれまでの40年の足跡が次なる世代への道標(みちしるべ)となり得るのかどうか、今少し考えてみたい、そんな課題も与えられたような気がします。

最後になりますがおいで下さった方々、お祝いの言葉を寄せて下さった皆様、組合員・職員、そしてお世話下さった関係者の皆様に本当にお礼申し上げたいと思います。

どうもありがとうございました。

25周年記念事業実行委員長

五十嵐 良一

「未来につなぐ」 設立25周年記念

農事組合法人 庄内協同ファーム

日時／2014年6月27日(金) 28(土) 場所／東京第一ホテル鶴岡・庄内各地

記念講演 演題「今!! 日本を読む」

佐高 信氏 講演を聞いて 芳賀修一

佐高先生と庄内協同ファームは法人設立以前のグループ「庄内農民レポート」の発足当時からのお付き合いとなります。

今から50年近く前、先生は庄内農業高校の社会科の教師として赴任され、当時の教え子がグループ発足メンバーの大半を占めており、その教え子の一人菅原孝明が講師紹介することから講演は始りました。

先生の授業は、教科書は使わずガリ版刷りの独自教材を毎回準備し、現代史を主に教え、テストの問題も「レッドページについて記せ」と言った論文形式で、社会のあり方を考えさせる内容だったとの事でした。

「日本を読む」と題した講演はアベノミクスと言われる政策を一刀両断、政治は本来どう有るべきかを伝えてくれました。

集団的自衛権行使容認は、本来戦争が起きたらどうするかを論じているのであって、戦争を起こさないようにするのが政治の使命、また経済政策も弱肉強食を是とするやり方で、そこに政治は無いと言い切り、モヤモヤを吹っ切る納得の講演でした。

佐高先生の教師生活は短かったわけですが、時代の流れに抗う事の必要性を教えることは出来たかなと言っておられました。

当時血気盛んな私たちは三里塚

空港反対や、減反政策反対等、口角泡を飛ばし議論し、ある者は運動に参加し、今日の庄内協同ファームを成り立たせる契機となつた事は間違ひ有りません。果たして今の自分達はどうすべきなのかを問われた気がしました。

法人設立25周年、グループ結成は40年経過し、自身65歳となった今、法人の事業との関係は別として、教え子たちも含めて、私たちの今後の残された人生の生き方を考るキッカケとなった講演でした。



祝 辞 三名の方から祝辞を頂戴しました



茨城大学 名誉教授 中島紀一様



(株)ジーピーエス 取締役専務 野村和夫様



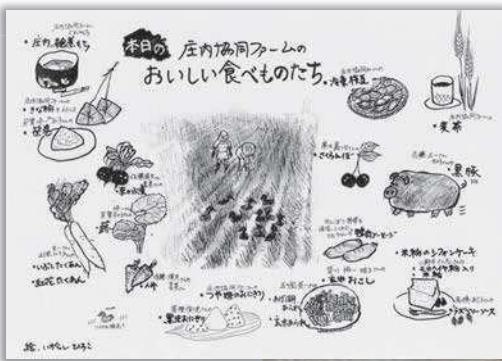
(株)大地を守る会 常務監査役 野田克巳様

25年のあゆみ これまでのあゆみを記念誌、展示、DVDで振り返りました

- 1960年代 「庄内農民レポート」発行
- 1972年 産直が始まり、メンバーでの餅つきスタート
- 1989年 農事組合法人庄内協同ファーム設立
- 1999年 JAS有機認証に取り組む
- 2000年 現鶴岡市八色木に移転
- 2003年 JA庄内たがわとの「庄内産直ネットワーク」設立
- 2014年 設立25周年を迎える



祝賀会 楽しく盛大に祝う事ができました



庄内探訪

25周年記念の2日目は、庄内協同ファームにゆかりのある場所を探訪するというバスツアーが企画されました。

初めに宿泊先のホテルから我が庄内協同ファームの施設見学を先に行うバスと組合員の志藤さんの枝豆圃場見学、同じく組合員の廣井さんのさくらんぼ農園でさくらんぼの収穫体験をするバスの2台に分かれ、交互に見学と体験をおこないました。

次に三川町対馬地区の通称鴨街道と呼ばれる圃場を眺めな

がら、共同施設にて農作業に使われる農業機械を見学しました。

最後に山形名物であるそばを会食しました。天ぷらやつや姫玄米粉入りそばもあり大満足の様子でした。

予定の探訪はそれで終了でしたが、番外編で時間の許す間、鶴岡市の致道館を見学して帰路につきました。



庄内協同ファーム
オリジナルキャラクター
「ファームくん」

ごあいさつ

農事組合法人庄内協同ファーム設立25周年にご列席頂き、誠にありがとうございました。お忙しい中また遠方からおいで頂き、心温まるお祝いの言葉、励ましの言葉の数々、また、記念誌の発行に際しては快くご寄稿頂き、改めて本当に多くの方々から支えて頂いたおかげで今の庄内協同ファームがあることを実感し、深く感謝申し上げます。

世代交代はどの組織でも多くの課題を抱えています。庄内協同ファームも、この25周年記念事業を経て今後どのような方向に向かうのか手探りの中から見出そうとしています。しかし、今後も有機栽培を継続し命の繋がりを大切に農産物を生産していく方向性は変わりありません。庄内農民レポートから40年に渡り、多くの方々のご支援に感謝し、今後も温かいご教授を賜りますよう宜しく願い申し上げます。

代表理事 小野寺喜作

文化祭のような同窓会のような青春のいっぱい詰まつた25周年式典でした。この日の為に1年以上かけて組合員・職員一丸となつて準備をしてきた中で、私達若い世代が知らないかった親世代の若き日の葛藤や農業にまつすぐ向き合ってきた情熱、そしてご列席頂いた多くの皆様との出会いや導きのおかげで今日の庄内協同ファームになつていつたのだという事を改めて知る機会を得た事、とてもありがたく感じています。

祝賀会でスピーチ頂いた方々からは、懐かしい思い出エピソードを聞かせていただき、それはもはや仕事というよりは同じ時代を駆け抜けた同志といった方が近く、そんな関係をうらやましく感じました。

農業も人生も流されず、自分の頭で考えていけば、道は切り開ける！そんなお手本を見た気がしました。

祭りの後。さあまた新しい一步。引き継いだバトンを手にこれからも農と食をお届けしてゆきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します！

(莓)

あとがき